

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	座間高校北・南棟新築工事	階数	地上4F
建設地	座間市入谷2丁目262番 他57筆	構造	RC造
用途地域	1種中高層地域、準防火地域	平均居住人員	500 人
気候区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 予定	評価の実施日	2015年6月1日
敷地面積	5,730 m <sup>2</sup>	作成者	(株)シグマ建築企画
建築面積	1,863 m <sup>2</sup>	確認日	2015年6月10日
延床面積	4,876 m <sup>2</sup>	確認者	(株)シグマ建築企画



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.3</b> ★★★★★</p> <p>S: A: B+: B: C:</p>	<p>☆☆☆☆☆</p> <p>30% 60% 80% 100% 100%超</p> <p>標準計算</p> <p>参照値: 建設 修繕・更新 解体 運用 オンサイト オフサイト</p> <p>建築物の取組み: 100%</p> <p>上記+ 以外の: 92%</p> <p>上記+: 92%</p> <p>0 46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>) 92</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.0</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 3.3</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.3</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 2.1</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.4</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.6</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.6</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>主動線を中心(交流の拠点)である中庭に緑地を設け、自然と親しむ環境づくりを行った。</p>	<p>その他</p> <p>0</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>昼光利用、制御のバランスに配慮し、南面にライトシェルフ・カーテン、西面に縦ルーバーを設置した。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>ゆとりのある階高・天井高とし、室間の壁を乾式遮音間仕切としフレキシビリティ性の向上に配慮した。</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>外周部に植樹帯を設ける等、周辺の住宅地・養護学校に配慮した計画とした。</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>昼光利用、南面の窓にライトシェルフを設置した。建物全般にLED照明を採用した。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>節水型設備機器及び節水コマを積極的に採用した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>卓越風に対し、中庭の両サイドをピロティとし、風が通り抜ける平面計画とした。屋上シート防水材に高反射材を採用した。(全面 100%)</p>

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される